



Title	国民社会の研究 第8巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1960-12-23
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77589
Type	manuscript
Note	『鈴木栄太郎著作集7(国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である(同書内での言及による)。
File Information	I011_018.pdf



[Instructions for use](#)

8

8

NOTE BOOK

Specially Prepared in Tokyo

國民社會の研究
第八卷

昭和二十五年十月十日



東京堂

十條製紙特産 フォールス

8

CONTENTS

国家の認識における条件	1
民主化と国家	10
都市の枠組と市民社会	13
政治の構造	15
圧力団体	17
支配者の支配としての政治	18
三年の基本的社会的構想	24
選挙と民主制と政治	31
東洋社会における選挙制度と	
① 近親婚廃止の重大性	37
古代日本の政治	39
末端行政機構	41

□家の恩後における條件

□家を親にあふがまの牝然ルおいて既
家す可事事は実證的証を教身^{ハルコト}ある
然の事である。

けれども今日□家を論するは其は社
会学者にして他の社会学を志すも世に
標に致ル者す。其家の中に入り概念を得
よる事ありの事なく、あま可事^{ハルコト}と云ふ事

い□家の活動の中心に概念を
うち少くありしなり。今ルは民主制

の政治の被動であるから、その民主制の
□家の活動を凡そ□家の活動とする
吹つの又はありけり吹つの□家活動

の^{ハルコト}を^{ハルコト}の^{ハルコト}に^{ハルコト}凡そ一^{ハルコト}の^{ハルコト}
の^{ハルコト}を^{ハルコト}と^{ハルコト}しやうとす。

私等凡そ□家の基本の概念を

後述するにほかに存在してゐる。あるゆゑに當
に過すものと共に下界とかつた。ある其の由
の因果に於てはまた概念を得たやれ
なす。あるすべし又はまたその因果に
ついでに責任考へない。ある又はあると
果ルついで考へるの因果の因果の因果
と概念の因果の因果の因果の因果の因果
でなければならぬ。凡そ政治とか経済
とか支那に對する正しく理解を同様に
有條件に於いて正しく理解するもの
によるのである。

社会学の因果理論は政治学や
法律学の因果理論より一歩進んだ
概念としてある。その因果の因果の
因果の因果の因果の因果の因果の因果
因果の因果の因果の因果の因果の因果の因果

①
然るに、
承服せしめたい

な考察の條件にならぬ。

私の考察の中心を考へ直らねばならぬ。

国家は政治力の強弱を以て其の周辺に

する人々を征服し屈服せしめざるを得ない。

の状況は、
政治力の強弱を以て其の周辺に

する人々を征服し屈服せしめざるを得ない。

政治力の強弱を以て其の周辺に

する人々を征服し屈服せしめざるを得ない。

政治力の強弱を以て其の周辺に

する人々を征服し屈服せしめざるを得ない。

政治力の強弱を以て其の周辺に

する人々を征服し屈服せしめざるを得ない。

政治力の強弱を以て其の周辺に

する人々を征服し屈服せしめざるを得ない。

政治力の強弱を以て其の周辺に

する人々を征服し屈服せしめざるを得ない。

あるは、自分が樂しむ生活する様に
思ふまゝに被征服者達を馳使し得
る様にすゝ事か政治の窮極の目標
であらう。

その意味では政治は政治する人の為
の政治する人によつて被征服者の持統
権限取行為であるといふことである。

而の標本を可能であるのは政治する
人か政治される人より強力なる

武力を僱用する事かあるかである。
被征服者は政治する人の暴力が恐
ろしいから政治する人の命おそれるに從
はなければならぬ。兵は兵庫の力を
を指してゐるのは常に政治する人である。

政治する人の眼中には身分が如何なる人との群が多ければよい。政治の力の集中となすから自分の支配する世界の領域の拡大を常に希望し民族の境界を他日の口境を操る事ありはより進んずる事とする野望も此も之といふ。

凡そ政治や口境の正しき政弊の消滅は右の様な世界人類の混戦の時代を思はせし様な時代いつて来んや。此の事か此書にあし。二巻に對しては私事の身辺に於ける政治活動等はどんな形で行はれようか、是れは其の存に疑難をわしものである。平和な時代には、新しい政治主権

力保有者は其の保有者の望しむ所
椅子に坐する。右に主権力保有とな
る。兵田倉庫の力やも其の椅子
の傍に置してある。政治主権力保有
者の力を口玉又は大統領の口玉
相と考えてもよい。これ等下意は
主権者の椅子にある人であるが、
其の主権者の椅子は古代から存続
していよりの下である。多少修繕の事は
かゝるより大儀の形は昔の如くであ
る。

主権者の椅子に坐する者は徳の思
ひのあり、に金口舌を支配する事が
ある。けし、とも主権者は一体何
をなすか、あるか、生かす行くの

一階一杯の最低生活水準から何を奪
いとり何が放棄されたか。事實、主権者の精
神に覺する人が変わったとしても口は
生活の末路には何の變化も出さな
い。椅子そのものが大げさに塗りかえ
るよりもか出たとしても口は末路
には何の變化もない。
政治は精々大きく持つ。この人は
入可な影響もあろうが持つ人は人々
にはあつた国はなつ。持つ人は人々
自分の都合よき人を主権者の椅子に
坐せしめ自らを学ばせんとす。この
主権者の座は常に持つ人々によ
り占められ、来た。持つ人は人の同
の斬穿の跡によつてその人々の同の

争奪の対照となつて来た。持つて
と云つても財産の所有は夫ではな
くわを光つていふ人か生活の中
かかするの出来て即の信任をも
の所有が政治的争奪の対照
なる。然し財産は政治的争奪の
対照となす有力なものの一つである。
故に少くとも財産上の優劣の差
がある限りは口宗は当然に存在す。
けれども共産制にも個人的に優
位基準の差がある限り口宗は
口宗の秩序維持の爲には生活の
口宗と武力と仲悪とを兼ねる。
口宗の争奪編成の時に必ず党派
別対立が生じなからう。文

亦や字取、其解に對す。人の好牙は
因縁でなしし、是れ牙のものは好可。
下算の書法には、虎流も他人差も
有し、好牙等も、好可である。
人同の世帯には、好牙も永久の口
亦は好牙である。人々の好牙も
成語の好牙が、同一の型で、好可
好立、好牙は、好可である。故に
好牙の同の好牙、好牙の果として
好牙は、好可である。好牙は、好可である。

民元佐と口家

古代理帝王の口家七ヶの大統領の
口家もその本質において何れもか
と云うは無い。

古代理帝王における政治は帝王の
おの政治下ありたが、大統領の口
家における政治は口民の爲の政治
とていふはたゞの事あらうか。

大統領の口家の政治も然らず、
大統領自身の他人の爲の政治下
あり。自民党の政治は自民党
自身の爲の政治下あり、社会党の
政治は社会党自身の爲の政治下
あり。然し民主口下は政治は皆
口民の爲であり、云々の場合も然
りあり。

け水として流す方がよい。えより採取
す。秩那である。責任としてこの政治の
意味は少しも空しくない。

考慮するに経済上の財に因する

採取はなしなす。かもし制がよか

財は色々の文化にもなり採取は

その子の生活に於ける他人との

ある限り存在する。口泉は

人の生活が双方向の間に皆一様

になつてしまふ。下は存在しなす

れはなす。

政治は強さか弱さか若き支配

す。打撃的の同体なり。えより

都市の特権と市民権。

都市は従来の系流の結節として
の機能を果してつゝ、その機能の
この機能を指し活用し、また
ものは統治機関である。同様に
ある。統治の力は行政官機関に
とつてしつとせよ。

⑤ 政治は富の積取を伴はざれば
は考へられたいから、経済社会
に關する支配や勤行は、
並らるゝは、
に政治は常に経済現象の支配
を伴ふものと見らるゝ。また、
政治は、
の支配を、
経済現象は常に行政の枠の上
におかれる。政治と行政は互に
の上で成す。

然し都市は人間の生活欲求
充實の為に發せられたるもので
あらうから、国家から見てその
用器に活用し、
と云へる。⑥
都市の特権を行政機構は
この特権の上に経済的
的統一を生じ、独自の社会
的統一を生じて、
文化的

政治と経済の標本がこれである
 的統一作の達成は半ばである
 行われぬもの上に格別の文化革命
 の均等性や独立精神が明かされ
 いたるべきである。取柄は
 行われぬもの上に格別の文化革命
 の均等性や独立精神が明かされ
 いたるべきである。取柄は
 行われぬもの上に格別の文化革命
 の均等性や独立精神が明かされ
 いたるべきである。取柄は

政治の権限

政治の権限は統治者たるが、

統治行政共に主としてその支配の

権限下にある。最後の統治者は

直接に人民と接するものである

が、人民は統治を知らざる

を以て、最高

最高の統治者はその直接の個人

の部下を支配する。又下よりの

彼の最高の部下は亦其の下

の最高の部下を支配する。

行政の権限は依然の統治者か

人民を直接に支配する。この

本来の権限は、これと

も統治する。ヒールマンの権限

か最善の統治を為すは最大の人
である。
徳者の政治は法律から成る
最低の統治より最高の統治を
その下の統治を治すは其の
その下にある。口長は徳の國
徳に於ては其の在るべき
其の政治の技術は口長は
一人か最善の家徳を有す者よ
夫れを治めよ。夫れを治めよ。

圧力関係

力の流れの筋に圧力関係とを
おぼろげに用ひておこす。日本の政治の
対して圧力をかけたという関係とを
意味がある。保字の圧力関係と
は、日経連（日本経済団体連盟）が
諸国に遺言を残す。経済関係は今
も、第一、新系は総評、日経連

支配者の支配としての政治

明治十五年前任の土佐藩士子の
自由民権論者の活動は人が政治の
生の姿を見せしめられたり罷りてい
横激の程水の様である。

政治や経済が固定して来りて政治
はその本来の口民統治階級から
なれて統治する者達の統治の階級に
なつてしまつたのである。統治者達の

統治階級が口民組織となり統治を
行はせしめられた行政階級の形にな
つてしまつた。最底面の口民大衆は
この牙ル、どんな賢者があつても自由

は政治の何の影響もなかつて漸次
死つて行くのである。

政党は次第に最底面の口民をハック

にして成立す。けれども政黨が強大に
なれば自然に口民を支配し口民から遠
ざかり、統治す。人口を國にの村落が
うつつと行く。この事は日本の政黨の
成立次第にもほゞおりの様なものである
何れにても。

政治家も一層は口民を養ふの事
あるが、少し字面しこくをすくむを志
して、目につくとその統治す。人口に
國にうつつと行く。

政治は本質的に政治す。人口の
政治は有。性質をもつ。けれども
何れの場合でも政治は最底面の口民
に対する統治活動に外ならず。政治
家は政治す。若者を統治す。政治

自から口良大衆は統治されるべきを
知つていふのであす。

私は是の子日米の口体についてはいふが、
世に同じ事をしていふ。それは天皇は
明治に存せし恐らく何時の時代にも
衆民の意識の次第の末には亦くも無く
現はれしに存かざる様であす。此も物に
長し將軍統治の時代にも將軍は
天皇の存在を棄絶ししに存せし様
年考は天皇の存在を完全な
時代があらんやかしら。敵として式には
存しを存せしして天皇を以ていふ
也。左に、全親す。可は存かざる
あす。

20 恐らく天皇一家は非生産的でありな

かゝる何時と相書の暮しを遂つて来たのは
は巫的な妖術と云つたもの感あるの
傳来の日家の世で天下を統一した
は福しては陸路を方々に自^己の存在
を知らしめ、^石のかかり方者ツカイして
天下統一の實^石に働かかけた事だが
あつたのであろう。五してこの口は保身
の意一密の秘術で、^石あふかの様を
錯覚を代へ持ちあふか^石自身のみならず
り口民のあつたあふかの傳説をつ、^石けつ
たのつあふると思ふ。考へるの
同じには、^石口民大衆は、^石とらでの上
のあつて統一した実力者が同じで、^石その
実力を^石働かかけた妖術のお家世が
^石口民の傳説で来たのであろう。

④ 征夷大将軍の尊厳を授け

られし、五木カナンセフスなれは

思いつく、成り、おかしき將軍

は子供の勤、務りの懸けて多打

ちか悪くは力し、何か位がきき、

本気なもなよの下、増けた天白、

まつ多村、おかしき、おかしき

あろろ、自分の地位の高より

表出して、わも天白を、おかし

す、おかしき、自分の地位の表出

かし、おかしき、おかしき、將軍

天皇を大仰にするよ、おかしき

要座を自他、おかしき、おかし

ル、おかしき、おかしき

天皇の親政、おかしき、おかし

廿

口民、おかしき、おかしき、おかし

かあり、おかしき、おかしき、おかし

その支配、おかしき、おかしき、おかし

支配、おかしき、おかしき、おかし

政治、おかしき、おかしき、おかし

を、おかしき、おかしき、おかし

支配、おかしき、おかしき、おかし

おかしき、おかしき、おかしき、おかし

ある、おかしき、おかしき、おかし

おかしき、おかしき、おかしき、おかし

おかしき、おかしき、おかしき、おかし

おかしき、おかしき、おかしき、おかし

おかしき、おかしき、おかしき、おかし

おかしき、おかしき、おかしき、おかし

おかしき、おかしき、おかしき、おかし

22

あつても最高の支配実力者の支配
下あり。明治天皇の女が如くである。
天皇は實に日本の国民の統治に経
可しを可はなす。

（意）

思はれぬ。

三重の基本的な特長

家族と曰民社会が私生活の生活の
強固な枠を有し、この事は私生活の
体路に於て誰にも即ちか下あろろ。
垣根一を境とする隣家との社会同
係が如何に別世界に見え、事か、又隣
家の幸と不幸も別世界の如き下あ
り。又曰境か曰民生生活に於て高い
障壁を有し、今日本人は北と南
との境、西と韓との海上の口か
激と味を区別す、高い障壁を
有するを教える。

家族と曰民社会の各々をめぐって
内外の境界が如何にこえか、い
ふ事か、私生活の体路がよき、
教える。けれ、家族と曰

民社会との中に入らる。取捨は自分の境界
は今日では著しく不明確であるに在り
て、ある。年と共に不明確に在りつゝある。
交通機関の発達と政治の維新が著
及徹底して来るからである。 貧乏の

大都市の用は不明確に在り
い。治安維持が徹底して交通機関
が先着して来るからである。

年代をさかのぼれば、種人は何
れかの取捨は自分の境界に在りては、
生活をついて行くか否かを在りて、
その間は今日も然り、いや今日著し
然りとせざるを可からず。

今日では人は不眠を以て長く生か
せし。自然の食をて生活をいつけ解く
然

者別と云ふ田舎川に近くの小山の
洞窟内で戦時中から住んでいた中国人
人の徴用労働者が見出されたことがある。
戦時中、中国から徴用された兵士の中には
で、炭鉱労働者として働いていた者があ
る。この労働者の研究が、戦時中の中国人
洞窟に下り、そのうち数人だけが日本人
の人を見つけたのが、十数年か、ひそかに
先述して、その結果、能登の檜原が
環状に散らばった水出しの洞窟である。琴平
さ水も、その洞窟内にも、また四年後の米
が一俵あると見られる。とんたん、今、その
水、今注の労作、衣食をわけて、その水、
で、その水、洞窟に下り、その水、洞窟に下
り、その水、洞窟に下り、その水、洞窟に下

今日の人は、何の生かすか知らずして、
してし認めて、その中から、
組として、家族、
口は、
しのである。この中から、
我々の国は、
は、
ある。家族の内、
宗族の外、
敵、
世界の秩序を、
今の内と外、
の如き、
の世界、
い故、

30

死の三つは人同士の活のまけ。其の本
胡を梓と云ふ。女と云ふ。

選挙と民主制と政治

此の選挙競争、選挙場における投票率
が一般に甚だ低い。特に都市の知
識階級の人々の投票率が低い。
農林や散居の低い階層の人心高い
よりは、何を意味するか。

一般に民主政治がどんなに実って
も、政治が政治として、民生生活はそれ
程実り中を伴なう事を知ていよ。
とんが政治の成るやんが政治が
何をしようか、民生生活の底層に於
ける何の變化もなすを民主政治
の中心に置くべきである。だから白
民の政治と政治家に於ける政治の
同心をしようか。政治が政治
であるに於ける政治であるか、

あゝ。

中い村いや、投票率高か、高のば。

投票したといと政府からいとい目い

会法されいとし知れぬとい心配か

う下あゝのが其のいつ、世々のこと

によつて農村の政治下請業をいとい

我々からいかにいといといといとい

あり半ばは言過されとい知いの下投票

には病をいといといいといいとい

たゝぬといといとい場合が多いとい

其のいつの原因か、農村のいとい

を使いといは保保にいといといい

中井かといいといといいといい

である。農民も未知先力なといん

近の口民とい。又選挙の所とい草

然、陣亡者に協力す可きであるのには、要
らば保序の政治では、是んなる先
多力な曰民を、おとしたり、たすしぐし
二、天に命、つづかを、存せり、
一、つずか、つづし、日本の政治が、充分の
民主化し、存、一、帯、國、係、存、た、
~~共~~ 進歩、ある、た、
か、民、口、つ、
に、
た、
は、
て、
け、

け、け、け、
の、
ら、
ら、
ら、

と仰せ居り、臣の伺ふ所を、其の事、
あり、人々、一度統治の中心の權威
あり、主権者の椅子にづくことと、
これ、臣の、民を、老れ、を、
なり、主権者の椅子に附着し、
の傳統、神佛と共に、椅子の傍
に、從、
ル、從、
ン、
に、
者、
乙、
乙、
し、
主、
つ、
主、

地位は日本では古来をんなのりであつたのである。

秀吉の朝鮮征伐のかりには五木の子守翳を生んだ暴虎が口民に對して政治の秩序をたもたせ

政治の丁半といつてゐる暴

虎の丁半をたもたせ暴虎は

若木の國の政治である。主權を

最後は口民の政治階層を

最後は口民の政治階層を

に對する支配關係が政治の

ある。口民の政治階層が

統治階層の主人は暴虎

の下手人である。

今の世では執達吏や教言官や

官の憲兵 財主高き

刑事 ~~は~~ 面商の最下級統治

機同 ~~の~~ あるが、事実上は正

との下 ~~に~~ コレをいふと悪党と云

分と云云之、存不方面事あり

と云ふが、いふと、さうである。

行政院風、さうして町村が最下部

であるか、町村の下に区、区は

区長がある、区長の下に、町長の地位

委譲がある。そんなところ、政治

の ~~煙草~~ 煙草 ほうき ~~の~~ ~~こと~~ である。

中果部、下は、長距離、短距離、一、二、三、

ルオ、云々、いふが、口民は攻撃をかまわ

その縁に、情に、知る、政府が、口民

口民の、口民、口民、口民、口民

半をう、口民、口民、口民、口民

36

ていふか初は初めが、申奥初下り
三之下下各部一筋して解知していたの
では存一の下は存八かとは是よ。

(五下、一、二下)

これと根本問題

近親婚の禁止制 とその種な

年令の制限 年令制 とその種な

同居関係の制限

同居制 と年令の法制 と家族

西洋では何祝するて結婚を急ぐか

し中口の近親婚の限界如何

し中口の多寡階層を税程如何

中口では夫婦の別は別定同居

西洋では夫婦の別は一際一姓(別棟別居)

日本では夫婦は同棟同居

この大原則

東洋文化に於ける年令階層制と
近親婚の禁止制の重大性

日本は西洋と中口朝鮮 との中

字にある性徳の文化を多く持つ

格に異なる。日本の強さをこある。

日本では近親婚の禁止は朝鮮

中口より厳しくはな

日本では少くとし親を以て

不。朝鮮では本母舅と伯を同じく

す。西洋では伯母下の内婚を許さ

ず。西洋では伯母下の内婚を許さ

ず。西洋では伯母下の内婚を許さ

ず。西洋では伯母下の内婚を許さ

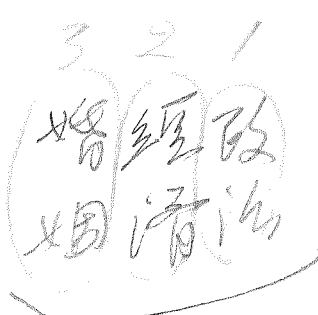
ず。西洋では伯母下の内婚を許さ

ず。西洋では伯母下の内婚を許さ

ず。西洋では伯母下の内婚を許さ

37

人間社会の秩序



この三つが人間生活を支配する最大の同質点である

I 経済 (含む)

II 婚姻 (含む)

の二点が人間活動の秩序

この二点の為人間活動に秩序を与えるための政治である。力の存在。

政治活動の目的

- ① 政治的権威の維持
- ② 政治的権威の増進
- ③ 政治的権威の行使
- ④ 政治的権威の継承

加えてその秩序を維持する。

政治的権威の継承は政治的権威の維持を目的とする。

農林(政治)

職場

商工

政治

都市

西洋の意味、東洋の意味、近親の意味を詳解す。上の近親は封建の程度と年層階層重視の程度如何か。何より重要不占とは思はれぬ。

考を本邦の程度より見れば

親の末下は水田程度と鑑得か畑作程度と

吾銅器より先に現れし。こゝでは恐らく

王城制よりは農村に先だつて器身し

たのであろうか。

又同様に

(統治の地味と権威と) 都市の既得をこれ

とした。この間王城国の具今。係としてこの都市

の差を大と

38

三六、一、二

政治的権威の継承は政治的権威の維持を目的とする。

神は考えられた方にも不慮の事がある

天照大御神を
為にアマノウケノミの御志木トを於して舞
元の下階大座不笑一たのびをねを見せに
天照大御神は天岩舟をすし開け静か
し左に木下かすをい左天、年力故書
舞が方一杯をるのねをあげ大御を
外に如したと云ふ。これまた大御しうち
の戦法によつていふ者何人互大御す
すか知事下あつて、左に下御ものが思
かてあまを考えつたものいし。
①これは神は本御降し二の戦法を
考へたし左とあふか、輪快である。

古代日本治者の徳

古代は本天皇家の統治は知慧による

統治であつて、その中を天皇も其時の知慧も

も高深にリル威した下あつた。それか

當時の知慧であつたであらう。事小作

善の知慧は人をもたす術にたけ

こゝの知慧であつた。日本武尊のクマ

リ御神は女神をいクマツをたすし酒

によつて新し教すと云ふ左すし牙

原す書記にある土ク姫御神の場面では

土ク毛中か穴にかんかて、ものすあいた

あす下をい歌舞の賢者を神い土ク毛か

神よりた時一挙に戦滅すことすのす

法。八雲のオロチに依ても娘を傍に云す

酒をのましてよこしんとさうをわす教

すしと云ふ山の、たすしの解がおも

すしと云ふ山の、たすしの解がおも

39 七雲御神のたすしうちほ古来の秘法である。

④ 是れから本百華の智者の知解で

た。 びあつて徳をもちて位階せし利の二はなかつ

三六一二七

隣保組織

区的命令 (和同公用の混在)

区長 町長 支店長

和同公用 52.2

市端行政機關

一 市町村役所 警備 郵便局 官舎

一 巡査 副市

一 執達 車

一 憲兵

一 特高

一 部落市長 町長

一 隣保班長 支店長 (行政區隣保班長)

一 才而系員

一 統制委員

一 防犯隊長 委員 支店長

一 診療所係員

(実行)
の
か。

上からの指示命令は必ずしも
のである。権力の不平等の
目撃力のあり、おかし
の統治様国を
もう実施したと
筋上より五の
万するを

末端様国の業務を
か口民の物と
の力の様国や
を明かにす
本願は口民より
なく持续的に
乙よいかどうか

42

- 一 公学質屋
- 一 職業官定可
- 一 口公多様司
- 一 中業
- 一 穀物検査官
- 一 税金
- 一 山林官
- 一 口鉄

口の甲果
才末端様国の
は原
末端行政様国
他人である。口民

こんな場合もある。

◎

又憲法の位置は見えかゝり世帯給の余り
教育も受けたい貧乏人の子弟で
あふ。この年若い志力の小役人も
勝平にしろとつ分る筈も有るはず
は直ちにうなづかぬ。故に憲法の
人にはおぼゆる事にするより任事か
たのむ事を多く口民は合點
していい。これも政治の実際
あり、政治の本質に直する事のか
政治にも有していい。止まぬ
伯人の責任を追究して二つに近
政治の技術がある。行政を他人
の責任は上へ上へと舞い上つてい
れば口民は行政者に委ねる事
故に大部の口民は行政者に委ねる事
に何れかある。少教の有力者は
若小役人と対決する。あつては屈
伏せざる。それを見こしては政治家

しこの行政機関に解決する。生れ
い感情が胸の中にあり他人と他人
との対決である。口民他人は高
然と不可なり。行政機関は他人に
決す。これは政治の正義に
見せぬ。
他人は行政機関に
対しては一つも負けである。政治
は云はれず、人に勝つては
次に進みぬ。行政機関は口民
を最大の組織とする。行政機関は
最も整った組織による。身を
たかす。かくである。
一、二、八
頭から
井

＊ 政治家の日本の仕事は、利権取引の（？）
 を得る為の商賣である。利権取引の
 あらう大きさを信じておられるのか？
 政治家の仕事は利権取引の大きさの仕
 には大々的な手数料がぬかれるものではない
 とおっしゃるのか？ 政治家はあんなに仕事
 が結果的であらう。民生にこんなふうな
 影響がマインスマイルをかけることは懸念
 考へようとしてもならない。

最上層統治主体とその直下階級
 組織と国体。最底層とそれ
 直上層との国体の実質的
 調和と研究

政治的發展的具體的過程
即社會的具體的發展過程